



都市の魅力に貢献する新しい商業空間の提案

タベルナ（紀元前）、パサージュ（18c末）、百貨店（19c末）・・・現代？（21c初）

課題要旨：

インターネットと郊外型ショッピングセンターが消費のありかたを大きく替えたことは疑い得ない。Amazonや楽天はカタログ通販の延長にあったとしても、その利便性とスピードを大幅に向上させたし、デパートはますます閑散としているが、郊外の国道沿いのショッピングモールには買い物客が溢れている。

斜陽産業としてのデパートには打つ手もなく、地方都市、郊外都市では老舗デパートが一つまた一つと看板をおろしていく。唯一元気がありそうに見えるはエキナカくらいだろうか。空き店舗だらけになったシャッター商店街では、お馴染みとなった現代アートによる街おこしが湿気た花火を打ち上げている。

本課題の主旨は、こうした問題に対して大きく遠回りして、歴史的な考察をもとに取り組もうというものである。スタジオではまず、西洋における都市型商業施設の歴史を学ぶところからはじめていく。

例えば、古代ローマ時代における都市型商業施設の一つとして、タベルナを挙げることができる。これは大規模都市型住宅（ドムス）や都市型集合住宅（インストラ）の1階部分で、通りに面して挿入されたワンルームの店舗であり、多くは中二階の居住部分を有する。この形式は、古代以来2000年以上にわたってヨーロッパの都市の基本構造を織りなしており、現代においてもパリ、ロンドン、ローマなどの歴史的な都市では、基本的にはこの町屋形式の店舗が使われつづけている。都市内の街区の四周はストリートに面した店舗で覆われ、ところどころで目立たぬように設けられた扉が、上層階の住戸へのアプローチとなっている。

ところが18世紀末のパリではまったく新しい商業施設のための敷地が都市内に見出された。それがパサージュである。ヨーロッパの都市では、タベルナ型店舗と広場などに開かれる市場の二類型が基本的な商業空間であったが、パサージュは街区の内側に通り抜けの通路を貫通させ、この半公半私通路をガラス天井の商店街としたのである。これは古代ローマ以来2000年を超えるヨーロッパ都市の伝統における大発明であった。さらに19世紀後半になると、百貨店というさらに新しいシステムが発明されていくことになる。

さて、これらの歴史は西洋のものであり、日本の商業空間とは直接関係のないものに見えるかもしれない。だが、既存の商店街や百貨店に対して近視眼的にアクションを起こすのではなく、歴史上現れてきた都市内の商業空間の大変革を深く学ぶことで、21世紀の日本(世界)における商業空間の革命を考えてほしい。

本課題の前半では上述の内容を含むレクチャーの後に、学生自身による歴史的な事例と最先端の事例のリサーチと発表を行うことで、都市内商業施設の問題点と可能性のあぶり出しを行う。後半では各自のアイデアにしたがって具体的なデザインを詰めていく。

- 🕒 指導担当：加藤耕一准教授・大和田卓（TA）
- 📍 エスキス場所：Room 306-307（加藤研）
- 📅 初回ガイダンス：4月10日（火）14:00～
- 👥 履修条件・人数制限：なし

都市の魅力に貢献する新しい商業空間の提案

スケジュール（基本的には毎週火曜日13:30に集合、木曜日は希望に応じる）

- 4月10日：ガイダンス、レクチャー（加藤）
- 4月17日：エスキース（事例研究発表会）、レクチャー（初田香成助教）
- 4月24日：エスキース（事例研究発表会）
- 5月01日：エスキース（事例研究からのコンセプト作り）
- 5月08日：エスキース（事例研究からのコンセプトと作品案作り）
- 5月15日：スタジオ内講評会（中間講評の準備）
- 5月22日：中間講評**
- 5月29日：エスキース（設計案）
- 6月05日：エスキース（設計案）
- 6月12日：エスキース（設計案）
- 6月19日：エスキース（設計案）
- 6月26日：スタジオ内講評会（最終提出の準備）
- 7月03日：提出・ポスターセッション**
- 7月10日：選抜講評会**

提出物

-  中間講評：A1用紙（横使い）1枚に、事例研究とその分析（図面、ダイアグラム、スケッチ、etc.）および自らの設計案（コンセプト、ダイアグラム、etc.）をレイアウト + 模型
-  最終提出：A1用紙（横使い）2枚（A0用紙縦1枚） + 模型（垂直投影面積A2以内）

事例研究と設計の方針

歴史的な商業空間の調査・研究・・・ヨーロッパ、東アジア、西アジア、アメリカ、etc.

- 都市的な魅力をもつもの、中心市街地の活性化に役立つようなものを中心に調査する

最先端の商業空間の調査・研究・・・国内外を問わず広く調査

- 実際につくられているもの、コンペ案などプロジェクトだけのもの、どちらでもかまわない

以下の両面にわたって調査するように注意する

-  敷地・構造（構成）などのハードに関わるアイデア
-  プログラム、システムなどのソフトに関わるアイデア

以上の調査を踏まえたうえで、具体的な敷地を設定して設計を行う。

参考文献

-  後藤久『都市型住宅の文化史 石の文化と木の文化』NHKブックス、1986年
 -  W. ベンヤミン『パサーージュ論』今村仁司、三島憲一他訳、岩波文庫、2003年
 -  鹿島茂『デパートを発明した夫婦』講談社現代新書、1991年
- その他、随時紹介します。